

愛顔 かがやけ 池島魂



～「今日も楽しかった。明日も楽しみ。」と思える学校を目指して～

発行：令和8年9月28日（月）NO14 文責：校長 津田 幸一

学校 HP URL <https://www.nagasaki-city.ed.jp/ikeshima-h/>

行事を通して育む子供たちの力

日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、10月上旬は校内の行事が集中的に行われる時期となっております。小学生は福岡方面への修学旅行、中学生は体育祭の開催を控え、児童生徒も教職員もその準備で大忙しの毎日を送っております。

修学旅行では、住み慣れた地域を離れて見聞を広め、集団行動を通して協力することの大切さを学びます。また、体育祭では、限られた時間の中で練習を重ね、仲間と声を掛け合いながら一つの事を成し遂げる達成感を味わいます。

さらに10月中旬には、小学生が参加する市内合同スポーツイベント「小体会」も実施される予定です。他校の児童とともにパラスポーツで汗を流し、励まし合う経験は、子供たちにとって大きな刺激となるはずです。

こうした一つひとつの行事は、単なる学校のイベントにとどまりません。準備から本番までの過程にある葛藤や喜びを経験した分だけ、子供たちは精神的にも大きく成長していきます。今後とも、子供たちの健やかな成長を支える本校の教育活動に、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、さ来月11月14日に開催される「池島まつり」について大切なお知らせがございます。今回の池島まつりは、これまでの歴史に区切りをつける「最終開催」となります。そのため、例年以上に多くの旧職員へ声を掛け、懐かしい顔ぶれが一堂に会する場となるよう準備を進めております。

島民の皆様におかれましても、これまでの思い出を振り返り、子供たちとともに楽しい時間を過ごしていただければ幸いです。ぜひ奮ってご参加くださいますよう、心よりお待ちしております。

『努力のつぼ』

ある小学1年生の作文です。

人が何かを始めようと、今までできなかったことをやろうと思ったとき、神様から「努力のつぼ」をもらいます。

そのつぼは、いろんな大きさがあって、人によって、時に大きいや小さいのやいろいろあります。

そして、そのつぼは、その人の目には決して見えないのです。

でも、その人がつぼの中に一生懸命に「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「努力」があふれるとき、ようやくそのつぼの大きさがわかるというのです。

目標の大きさ（つぼの大きさ）によって、必要な「努力」の量も変化しますが、休まずにつぼの中に「努力」を入れていけば、**いつか、必ず、できるときがくる**のです。

2学期に掲げた3つの重点目標「早寝早起き朝ごはん」「美しい言葉」「時間をまもる意識」は、**ひとたび習慣化できれば、一生の財産になる**と思います。

しかし、当事者にとって、その過程にこそ難しさがあることでしょう。

一念発起して目標をもてても、なかなか行動化が継続しないものです。**「明日からやろう・・・」と逃げてしまうのは大人でもあることです。**

やはり大切なことは、子ども本人の目的意識です。これをどう引き出すのかです。

もし私が会社経営をしていたとして、新入社員を2人のうち1人を選ばなくてはならない場面。

ほぼ同じ資質がある2人のうち、鉄棒の「逆上がり」ができる方を採用するね。

「逆上がり」ができるまで練習を続けた人なのだから、会社のために頑張ってくれるだろうって思えるからね。きっとこの人は、仕事を途中で投げ出さない、任せてよい・・・と考える。

学級担任であったころ、4月の学級開きで、毎年このようなことを子供たちに言っていました。私は、**努力を継続できること以上に素晴らしい資質はない**と思っています。

逆上がりと同様の例を挙げれば、自転車です。いちど乗れるようになると、ずっと乗れます。これは、バランスをとって車体をこぎ進める感覚を、身体が覚えてしまうからです。身につくまでは何度も転びます。

大切なことは、できるようになるまでの過程で、投げ出さないことや、他者の意見にも素直に耳を貸しながら正しい方法で繰り返し取り組むことです。

自分の成功をイメージして何事にもチャレンジ!

自分のペースで、こつこつと、つぼの中に「努力」を入れて続けていける、池島っ子になることを願っています。